

(こども版) としょかんだより No.253

わくわく本だな

2005年

3月号

富山市立図書館 富山市丸の内1-4-50 電話 076-432-7272

かしわば さちこ 柏葉幸子の本

柏葉幸子さんは、薬科大学を卒業し、薬剤師の資格を持っているめずらしい作家です。

児童文学新人賞を受賞した『霧のむこうのふしぎな町』は、映画「千と千尋の神隠し」に影響をあたえた、ファンタジーの名作としても有名です。

「かいとうドチドチびじゅつかんへいく」 (えほん) 講談社

村はずれの小さな家にすんでいるおじいさんは、むかし、かいとうドチドチとよばれたどろぼうでした。なにかをぬすむと、そのかわりに、プレゼントのはいった自分のくつしたをおいていく、ふうがわりなどろぼうでした。



「モンスター・ホテル」シリーズ 全10巻 小峰書店

町はずれのあきビルは、モンスターたちのこころのふるさと“モンスター・ホテル”です。きょうも、モンスターたちがぞくぞくと集まってパーティがはじまりました。

ヨネ先生のおばけ塾シリーズ 全3巻 教育画劇

ヨネ先生の塾は、毎週金曜日の真夜中だけゆうれいたちの『おばけ塾』になります。先生は、おばけたちに日記をつける宿題をだしました。

「きゅうけつきの息子の日記」 「ろくろっ首の日記」 「ゆうれいの日記」

「ラ・モネッタちゃんはきげんがわるい」 偕成社

ズッキーニ城のお姫さまラ・モネッタちゃんは、いつもきげんがわるくえがおをみせたことがありません。そんなラ・モネッタちゃんのところへ、おそろしい家庭教師がやってきました。



「魔女モティ」 講談社

今日は紀恵の誕生日ですが、だれも気づいてくれません。おこって家出をした紀恵の前に黒猫が現れました。その日から、紀恵は、魔女のお母さんとピエロのお父さんという、新しい家族とくらすことになったのです。

あたらしくはいった本

= 1・2年
= 3・4年
= 5・6年

えほん

「**こんにちは おにさん**」 内田 麟太郎 / 作 教育画劇



おには、だれかがいるといつも、いばってみせていました。ところが、けむしをみてひめいをあげたのを、クマやイノシシにわらわられてから、家にかくれて出てこなくなります。イタチとタヌキは、心配して毎日さそいに来ますが、とうとう夏のあつさで、二ひきはたおれてしまいました。

ものがたり

「**ナニカのとね**」 正道 かほる / 作 佼成出版社

こうさぎのふわりが森を歩いていると、とつぜんなにかが落ちてきました。くるとピンクのしましまで、あめ玉みたいですよ。ものしりのふくろうじいさんに聞いてみると「なにかのとねじゃ」とおしえてくれました。

「**したてやのプンブルばあさん**」 松居 スーザン / 作 文溪堂

年をとって目がわるくなったトガリネズミのプンブルばあさんは、心の中でもよを思いうかべながら、ようふくにししゅうをします。でもどんなもようができあがるか、自分でもよくわかりません。オコジョが注文したネコヤナギもよのチョコッキは、ちょうちょもよようにしあがりました。



「**どうぶつゆうびん**」 もとした いづみ / 作 講談社

動物たちに手紙を書いてみたいと思ったことはありませんか。インドゾウ、ダンゴムシ、アホウドリ…。人間が送った手紙に、動物たちはどんな返事をくれたのでしょうか。



「**ドラゴン・スレイヤー・アカデミー** ドラゴンたいじ一年生」

ケイト・マクミュラン / 作 岩崎書店



ウィリーは、虫一匹だっていじめられないやさしい男の子です。でもすごい勇者になるという夢ゆめを持っています。ある日、家にやってきた旅人からドラゴンの話をたくさん聞いたウィリーは、ドラゴンたいじの勇者をそだてるという学校に入りました。

「またたびトラベル」

茂市 久美子 / 作

学研

迷路めいろのように続く細い路地のつきあたりに、“またたびトラベル”がありました。ふつうの旅行会社ではありません。悩みや問題をかかえている人が、迷い込んでくるのです。足がいたいサラリーマン、お店がはやらなくなったコックさん、仕事が見つからない女学生など・・・。

ちしきの本



「世界のマーク - 由来や意味が分かる343点 - 」 主婦の友社 / 編刊



駅や道路などでよく見かけるマーク。マークはその形や色を見ただけで、“危険”“安全”“場所”などの意味が分かります。

非常口ひじょうぐちやトイレなど、生活の中で知っておきたい身近なものから、ちょっと変わったマークまで、いろいろな国のマークを紹介しています。



春をさがそう！

3月、少しずつあたたかくなり、春の気配けはいが感じられるようになってきます。本の中でも、春をみつけてみましょう。

「ふゆめがっしょうだん」(えほん) 富成 忠夫、茂木 透 / 写真 長 新太 / 文 福音館書店

公園の木をみてみましょう。顔みtainな“ふゆめ”がついています。これは秋に落ちた葉っぱのあとです。これから葉や花になるものが中に小さくたたまっていて、春がくるのを待っています。



「はるをさがしに 新・自然きらきら 1」(ちしき)

七尾 純 / 文 偕成社

明るいひざしに目をさましたてんとうむしが、かたつむりやちょうちょをおこしにいきました。のはらでは、花はまだつぼみです。

「春がすみやまからとどきました」 たかはし こうこ / 作 大日本図書

町はずれにすみもんたさんのところに、ある朝、にもつが届きました。開けてみると、中から黒いこぐまが出てきたのです。でも、「まだ、さむいや」と言ってすぐ箱にもどり、眠ってしまいました。



「花ものがたり 春」 立原 えりか / 作 小学館



宝の城を開くカギ=サクラソウ(ドイツの伝説) 三月のおくりもの=スミレ(ヨーロッパの伝説) かおりはかくせない=ウメ(日本の昔話) など、世界各地の花にまつわる物語を紹介しています。

しいたい しらべたい



「春一番が吹きました」と气象台が発表しました。この風はいつ、どこから吹いてくるのでしょうか。

次の本などで調べることができます。

- 「空と天気のおしぎ」 武田 康夫 / 監修 ポプラ社
- 「たのしいお天気学 1 春のお天気」 根本 順吉 / 作 小峰書房
- 「四季のお天気かんさつ」 塚本 治弘 / 文 あかね書房



シリーズしょうかい

「たんじょうびのやくそく」 ハリネズミとちいさなおとなりさん

仁科 幸子 / 作 フレーベル館

ハリネズミは自分のたんじょうびをおぼえていません。ちいさなおとなりさんと
かってにすきな日にきめました。ふたりの毎日は小さな発見でいっぱいです。



「こうえんのシロ まめまき」 わたなべ ひろみ / 作 ポプラ社

つよいオニにあこがれているシロは、お面をかぶってみんなをこわがらせようと
しますが、そこへ本物のオニがあらわれます。

「キャベたまたんてい かいとうセロリとうじょう」 三田村 信行 / 作 金の星社

レタス家につたわる世界一のダイヤが、宝石どろぼうのアルセーヌ・セロリに
ぬすまれてしまいました。でも、ダイヤはにせものだったのです。

「幽霊とデート中！」 魔女探偵団 藤 真知子 / 作 岩崎書店

アヤカがパーティ - 会場で出会ったステキな男の子は、江戸時代に島原で亡くなった
あまくさしろう
天草四郎のゆうれいでした。

「スパイダーウィック家の謎 オーガーの宮殿へ」 ホーリ・ブラック / 作 文溪堂

ようせい ひみつ なぞ
妖精の秘密が書かれた謎の本をめぐって、家族や妖精たちをまきこんだ危険な奪い合いが
はじまりました。そこへ、この世を支配しようとするオーガーがあらわれます。

3 がつ

おやすみの日

3月 3日(木)

3月 14日(月)

3月 21日(月)

3月 7日(月)

3月 20日(日・祝)

3月 28日(月)